



八中だより



『食欲の秋・秋の味覚』

校長 高汐 康浩

第13号
令和6年10月15日
府中市立
府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年216名、二学年248名、三学年261名
全校生徒数725名
〈学校住所・電話番号〉
〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
電話 〇四二(三六四)一八八一
★地域の皆様、卒業生の皆様から創立五十周年のお祝いのお言葉をたくさんいただきました。ありがとうございます。

九月後半になっても、しばらくは暑い日が続いていますが、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋などといわれる何をするにも絶好の季節になりました。
私の趣味のひとつに「食べ歩き」があります。いろいろな地域の伝統的な食べ物であったり、いろいろな国特有の食べ物であったり、どこかに出かけたときは必ずご当地の食べ物をおいしくいただきます。
ところで、秋の味覚といった何を思い浮かべますか。何人かの生徒、教職員に聞いてみました。生徒の皆さんからは、「きのこ」、「栗」、「栗ごはん」、「さんま」、「さつまいも」、「職員室、事務室では、「さつまいも」、「栗」、「焼き芋」、「松茸」、「ぶどう」という答えが返ってきました。この文を書いているだけで、食欲が出てきてしまいました。この文を秋になると思い出すのが、小学生だった頃、祖父に連れられ、万葉集で「多摩の横山」と詠(うた)われていた多摩丘陵を歩き回ったことです。祖父は日野市で長い間農業をしていました。そして、植物にとっても詳しく、たくさんのお話を教えてもらいました。多摩の横山を歩きながら、山芋のとれる場所を教えてくださいました。秋には「あけび」をとったりしました。多摩の横山には、たくさんの多摩動物公園のちようど裏手には、たくさんの「あけびの木」がありました。熟したあけびは、実が割れ、その中から果肉が出てきます。果肉は、ねっとりとした食感でとても甘いのですが、



種がたくさんあり食べづらかった印象が残っています。「あけび」については、先日の合唱コンクールの連合合唱団が歌った「春」の歌詞にも出てきました。
かなり前のことですが、北海道の納沙布(のさっぷ)岬を訪れたときのことです。納沙布岬は根室市の東端にあり、ここからは北方領土の歯舞群島などの島々を間近に眺めることができそうです。ちょうどお昼時だったので、そこにある小さな屋台に入りました。屋台の主人が出てきて、「ここにきたら、さんま井を食いなさい。」と言ったので、さんま井をいただくことにしました。どんぶりに凍った棒状のさんまの切り身がたくさんのついでにありました。それまで、生のさんまを食べたことがなかったのですが、食べてみてびっくりするほど味わい深くおいしかったのです。さんまは足がはやい(※)といわれます。なので、これも水揚げのあるご当地ならではのものです。(※『足がはやい』：腐りやすいという意味)
本校の給食でも「秋の味覚」を楽しむことができます。今月はさつまいもやごぼう、きのこを使用した献立があります。明後日の献立は栗ご飯です。楽しみにしている人がいっぱいいるのではないのでしょうか。



《お礼》本校の創立五十周年に際して、同窓会から、お祝いの横断幕をいただきました。感謝申し上げます。正門と多摩川側に掲示していますので、ぜひご覧ください。

活躍する八中生

【敬称略】

★市制施行七十周年記念

★第六十五回市民体育大会秋季大会開会式★

十月六日(日)に郷土の森総合体育館で開会式が行われました。本校からは卓球部の生徒が6名(嶺川英志、綿谷虎之佑、和田塔矢、岡本悠真、杉浦陽向、新津谷奏汰)が参列し、優勝旗返還、市旗入場行進、市旗掲揚という大役を見事に果たしました。

★吹奏楽部★

十月五日(土)に行われた、四谷文化センターまつりでは、吹奏楽部の演奏でまつりを盛り上げました。

★バドミントン部★

第六十五回 府中市民体育大会 秋季大会
二・三年男子シングルス 第三位 川合 広兎
女子シングルス 優勝 向井 咲菜

一年 女子シングルス 優勝 鈴木 心友里
二・三年 女子ダブルス 第三位 芳賀 梨音
吉川 由芽

中学校対抗男子
川合 広兎 清家 共造 第三位
大友 拓弥 長谷川 照太郎
中山 虎祇 荒木 颯太
町田 宗汰 濱崎 昂大
女子 第三位
松本 藍 藤田 紗帆
赤堀 琉莉 鈴木 心友里
岡野 柚葉 芳賀 奏音
佐藤 うらら 芳賀 梨音



秋雨(あきさめ)の時期のケガに注意!

梅雨(つゆ)や秋雨の時期には室内でのケガが多くなる傾向があることは周知のとおりです。滑ったり、転んだり、出合頭(であいがしら)にぶつかったりしないように注意しましょう。保健委員のみなさんがポスターで呼びかけを行う予定です。生徒の皆さんは必ずポスターの内容を確認して、『ケガをしない』という意識をもって生活していきましょう!

「がくちか」とコンピテンシー

先日、第三学年では、都立第一商業高等学校の平野篤士校長先生を講師にお招きして、『面接講座』を実施しました。三年生にとって、面接の意義などを学ぶ大変貴重な機会になりました。

さて、『がくちか』という言葉聞いたことはありますか。『がくちか』とは就職活動をしている大学生が使う言葉だそうです。入社試験で特に重要視されているのは「学(がく)生時代に特に力(ちか)を注いだこと」ということで、このことを略したもののなのです。入社試験の面接では、学生時代に力を注いだことを中心に重ねて質問されるのです。

四月の全校朝礼で話題にした『コンピテンシー』という言葉覚えていきますか。これから進路実現に向けての取組の真っ最中にある三年生には、この機会に改めて『コンピテンシー』について確認してほしいとおもいます。大学生が受ける入社試験と同じく高校入試の面接では、「中学校で一番力を注いだのはどんな活動ですか?」「〇〇委員をしていたのですが、いちばん成果を残したのはどんなことですか?」など、その人が特に頑張ったことについて質問され、答えたことを掘り下げるように、次から次へと関連した質問が行われます。「コンピテンシー」を重要視した面接では「ごまかし」は効かないのです。(学校だより2号に詳しく記載してありますのでご覧ください)

【参考】

《昨年度の都立高校の推薦入試の面接の質問の一部を紹介します》

- 都立狛江高等学校
「部活動以外の活動で力を注いだ活動は何ですか?」
「その活動をとおして何を学びましたか?」
- 都立昭和高等学校
「本校の期待する生徒の姿」の1から5のうち、あなたはどれにあてはまりますか?」
「委員会の委員長をやったということですが、活動をとおして、何を学ばしたか?」
- 都立立川高等学校
「あなたは自分をどのようなリーダーだと思えますか?」
「あなたはリーダーとして、全体をまとめる上で工夫したことは何ですか?」
- 都立芦花高等学校
「中学校3年間で頑張ったことは何ですか?」(「部活動部長」と回答)
「部活動の活動内容を説明してください。」
「部長を経験してよかったことは何ですか?」
「部活動をとおして学んだことは何ですか?」

